



第1図 ユソウボク

E. J. H. CORNER, 渡辺清彦「図説熱帯植物集成」  
より

グナムバイタを付属書II(商業目的の国際取引は可能だが輸出許可書が必要なもの)に含めることが可決された。

## 2. ユソウボクの名称、分布と形態

(第1図、写真3、4)

ユソウボク(1名リグナムバイタ) *Guaiacum officinale* LINNAEUS は西インド諸島全域と南米のカリブ海沿岸に分布し、また中米地域にもあるとい



写真3 ユソウボクの樹幹

われている。一般名は *Lignum-vitae*, 英名は guajac wood, pock wood, 独名は Guajakholz, Pockholz, Franzosenholz など、また英名で同属の他種と区別して thin-sap *lignum-vitae*, プエルトリコで *Lignum sanctum*, guayacan blanco, キューバで guayacan negro, guayacan preto, palo santo, ベネズエラで palo santo などという。

常緑小~中高木で通常高さ 5~10m, 直径 10~45cm であるがときに直径 75cm に至るものがある。生長はきわめて遅い。樹冠は密で円形に近く、樹皮は淡褐色に灰白色と灰緑色の斑紋が現われ、平滑で薄い鱗片状になって剥げることが同属の他種との区別点になっている。葉は対生し小葉 2~3 対からなる偶数羽状複葉、長さは 3.8~7.5cm である。小葉は倒卵形、広橢円形などで先端は円形、基部は円形~鈍形、長さ 1~3cm、小葉対の先のものほど大きい。全縁、革質、淡緑色でややツゲのような感じがあり下面帶白色である。小枝の先に淡青色か青色の花を散形につける。やや香りがあり径約 1.5cm で花弁は 5 個ある。果実は扁平な蒴果で倒心形、長さ 2cm ほどで熟して橙褐色になり裂開して 1~2 個の種子を放出する。種子の長さは約 1.3cm である。

## 3. ユソウボクの材の組織(写真5~7)

散孔材。辺・心材の区別は明瞭で辺材は比較的幅が狭く帶黃灰白色、心材は暗黃褐色、暗褐色、帶綠黒褐色でやや濃淡の縞が見られるものが多い。生長輪は不明瞭でふつう認められないが、ときに



写真4 ユソウボクの枝葉

(東京大学・樹芸研究所、温室)